

# 植物防疫情報 第4号

平成 25年 5月27日  
岡山県病害虫防除所  
岡山県植物防疫協会

## 岡山県南部におけるモモハモグリガの発生状況

岡山県病害虫防除所による5月21日の巡回調査（南部）によると、モモ園のモモハモグリガの発生程度は低いものの、発生ほ場率が14.3%と平年（6.4%）より高くなっています。赤磐市のフェロモントラップにおける5月1～4半旬の誘殺は無く、平年（12.4頭）より少ないですが、今後、本虫の増殖に好適な高温乾燥条件が続くと発生量が増加する可能性があります。ほ場をよく観察し、葉に幼虫の食入痕が確認された場合は速やかに防除を実施してください。特に、昨年多発した園では注意深く観察してください。

### <防除対策および防除上の参考事項>

- (1) 薬剤による防除は10月まで発生に応じて実施する。ただし、本虫は発生回数が多く、世代が進んで卵～成虫の成育ステージが混在すると薬剤の防除効果が劣るので、特に6月20日までの初期防除に重点をおく。なお、使用する主な防除薬剤は下表による。
- (2) 本虫が食入して落葉した葉は次世代の発生源となるので、集めて処理する。
- (3) 本虫の葉への食入初期の症状（産卵痕）は小さな白点である。
- (4) 農薬の使用に当たっては、使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ農薬が飛散しないよう十分注意する。
- (5) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）で確認できる。

表 モモハモグリガの主な防除薬剤（平成25年5月22日現在）

薬剤名	農薬使用基準		
	希釈倍数・処理量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数
アディオソ乳剤	2,000～4,000倍	7	6
ノーモルト乳剤	1,000～2,000倍	1	2
オリオン水和剤40	1,000倍	7	5
* アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	1	3
* モスピラン顆粒水溶剤 モスピラン水溶剤	2,000～4,000倍	1	3
* アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	3	2
* ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	7	3
*** フェニックスフロアブル フェニックス顆粒水和剤	4,000倍	1	2
*** サムコルフロアブル10	5,000倍	1	2
**** スピノエースフロアブル	2,000～6,000倍	3	3
**** ディアナWDG	5,000～10,000倍	1	2

注 同じ印（\*、\*\*、\*\*\*）の剤は同系統の薬剤なので多用を避ける

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239)です。